

アミーナ・サイード・ハサンさん の活動を支援してください！

文責：藤井 なつみ



アミーナ・サイード・ハサン (Ameena Saeed Hasan) さんは、イラク議会の元議員で、IS に連れ去られた女性達を救出する活動をしています。

現在、イラク北西部及びシリアでは、多くのヤジディ教徒の人々が ISIS によって命を奪われたり、拉致されたりしています。多くの男性が殺され、若い女性や子供達は連れ去られて、奴隷市場で奴隷として廉価で売られています。女性達は、繰り返し転売され、何度も強姦され、暴行を加えられ、奴隷として働かされています。たくさんの女性達が、そのような状況に耐えられず、自殺しているということです (2015 年 10 月 6 日 CNN 「ISIS に拉致された女性、絶望で『数百人』が自殺」・次頁参考)。

アミーナさんの元には、女性達の家族や、時には女性達自身から救出を求める連絡が入ります。アミーナさんは、弁護士の夫ハリルさんとともに彼女達を救出する計画を立て、ISIS の支配地域内にいる協力者とともに、女性達の救出計画を実行します。監視の目をかいくぐって行う救出活動はとても危険なものであり、秒単位で計画を立てて実行します。これまで 100 人以上の女性や子供達の救出に成功しており、その活動は、今年、米国国務省により表彰されました。

アミーナさんによれば、現在でも、3000 人以上のヤジディ教徒の人々が ISIS に拘束されている状態であり、その多くは、女性や子供達だということです。深刻な現状であるにもかかわらず、この問題に関心を持ってくれる人は少なく、拘束下にある人々の命が失われていっています。



筆者は、NHK 国際ニュース (<https://www.youtube.com/watch?v=7jrH5W4VYS0>) でアミーナさん達が危険を冒して女性や子供達を救出する活動を行っていることを知り、彼女の Facebook を通じて直接連絡をとり、その活動を応援するようになりました。アミーナさんの活動は、ISIS に捕まって絶望的な生活を送っている女性や子供達の数少ない希望です。日本の皆さんにもアミーナさんの活動を知っていただき、アミーナさんの活動を支援するため、是非ご協力をお願いしたいと思います。

アミーナ・サイード・ハサンさんの活動を助けるためのご寄付をお願いいたします。

ご寄付先はこちら⇒ 広島銀行 白島支店 普通 3271440 フジイナツミ

- お手数ですが、ご寄付くださった方は、藤井のメールアドレス (fujii_n@mbn.nifty.com) まで、ご寄付の旨及び金額をご一報くださるか、広島「外国人技能実習生を支援する会」(電話・FAX 082-264-2310) へお電話いただけますようお願いいたします。

【ISIS に拘束された人々に関する参考記事等 (引用・抜粋)】

★CNN 10.6.2015 「ISIS に拉致された女性、絶望で『数百人』が自殺」より
(<http://www.cnn.co.jp/world/35071512.html>)

イラク北部のモスルを掌握したISISは、ヤジディが住むシンジャル山に侵攻して女性や子ども数千人を拉致、男性は殺害した。非イスラム教徒の女性を捕虜とすることを正当化し、強姦(ごうかん)も許されると主張している。

(中略)

35歳の女性は6人の子どもと共に拉致され、ISISの奴隷市場で売買されたという。女性はハサンさんへの電話で助けを求め、「2台の大型トラックで村からどこかへ連れて行かれた。どこかは分からない。トラックに乗せられそうになって抵抗した女性は殺された」と訴えた。

幸運にもこの女性は脱出に成功した。しかしハサンさんによれば、多くの女性は繰り返し強姦され、暴行されて、助けを待てずに自ら命を絶っているという。

「彼女たちを何とか救出したい」「何百人という少女たちが自殺した」とハサンさんは涙ぐむ。「少女たちは救出の望みを失って、ISISに何度も何度も売られて強姦され、自殺している。ほとんどは連絡が取れなくなった」

ハサンさんはこうした活動が評価され、米務省に表彰された。それでも救えなかった女性たちのことがいつも頭から離れないという。『いつ助けてくれるの』と尋ねられても答えられない。私は政府でも何でもなく、ただの個人だから。とてもつらい。

★THE WORLD POST

11.16.2015 「ヤジディ達は、フランスの空爆後ISISによって拘束されている親族の無事を心配している」より

(http://www.huffingtonpost.com/entry/yazidi-captives-isis-france-airstrikes_5649f4cee4b060377349d962) 原文英語

生存者達は、シリアのラッカでは、おそらく何百人ものヤジディの女性、少女、少年達があり、性奴隷とされており、子供達は少年兵にされている、と語る。

生存者達が本紙に語ったところによれば、若い女性や少女達は、年配の女性達から引き離され、年配の女性達は、男性達や10代の青年達と一緒に殺された。

洗脳しやすい者達や性的に搾取できる者だけが生き残され、恐怖に耐える生活を強いられた。

シナンは、他の何百人ものヤジディの女性達とともに、2014年8月の大量虐殺を生き残ったが、彼女の4ヶ月の娘は、食料、水、医療がなかったために、その後すぐに死んでしまった。

「私達は生きるために自分の尿を飲みました」と、彼女は、それが昨日のことであるかのように語った。

シナンは、ISISの兵士にシンジャルで捕まった後、数ヶ月後にラッカにバスで運ばれるために連れてこられたイラクのタールアファルで自分の子供の遺体を埋葬した。

最初、彼女は、ラッカの広場に拘束されており、その後、100人のヤジディの女性達と一緒に油田に連れて行かれた。彼女はすでに結婚していたが、拘束者達は、彼女をアフリカ出身のイギリス人弁護士と”結婚”させ、彼女はその男に繰り返しレイプされ、鉄パイプで殴られた。

彼の偽名は、アブ・ムスリムとあって、ISIS の暴力的なイスラム教の解釈を非難する世界中のイスラム教徒にとっては恐ろしいことに、ISIS が従っているという宗教に従った名前だった。

「私は、彼をバラバラに切り刻んでやりたかった」とシナンは言う。彼女の心の傷は、激しい怒りに覆われていた。

シナンの従姉妹、イブティサム（30歳）は、彼女が目撃した恐ろしいレイプを思い出す。彼女は、ISIS の兵士が7歳～9歳くらいの女の子を襲っていたと話す。

「私は、それをこの目で見ました」イブティサムは激しく怒りを込めて言った。彼らは、彼女の手足を縛っていました。私は、「代わりに私を殺して！」と叫びました。